

博士学位論文審査報告書

Summary of Doctoral Thesis and Report of Examination

研究科長 殿

下記のとおり、審査結果を報告します。

To the Dean:

We report the result of Examination for the Doctoral Thesis below.

学籍番号 Student I.D. No.: 4007S304-1学生氏名 Name: Nguyen Thuy Anh和文題名 Title in Japanese: 大学の各構成員から見た高等教育の国際化 - ベトナム国立大学の事例英文題名 Title in English: The Internationalization of Higher Education from the Perspectives of

Institutional Stakeholders: The Case of Vietnam National University, Hanoi

記

1. 口述試験参加教員 Faculty Members Involved in Oral Examination

審査委員会主査 Chief Referee of the Screening Committee

氏名 Name: 黒田一雄 印所属 Affiliated Institution: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科資格 Status: 教授

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

Ph.D. (コーネル大学)

副査 (審査委員 1) Deputy Advisor (Member of Screening Committee 1)

氏名 Name: 杉村美紀 印所属 Affiliated Institution: 上智大学総合人間科学部資格 Status: 准教授

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

審査委員 2 Member of Screening Committee 2

氏名 Name: 山岡道男 印所属 Affiliated Institution: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科資格 Status: 教授

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

学術博士 (早稲田大学)

審査委員 3 Member of Screening Committee 3

氏名 Name: Gracia Liu Farrer 印所属 Affiliated Institution: 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科資格 Status: 准教授

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

審査委員 4 [該当者のみ] Member of Screening Committee 4 [if any]

氏名 Name: _____ 印

所属 Affiliated Institution: _____

資格 Status: _____

博士学位名・取得大学名: Ph.D. Title Earned・Name of Institution

2. 開催日時 Date / Time: (Y)2010 / (M) 12 / (D) 13 (Time) 5 時限

[時限 / Period] 1st: 9:00-10:30, 2nd: 10:40-12:10, 3rd: 13:00-14:30, 4th: 14:45-16:15, 5th: 16:30-18:00, 6th: 18:15-19:45, 7th: 20:00-21:303. 会場 Venue: 19号館 310教室4. 合否判定 Result: 合/Passed・否/Failed (該当する方に Circle as appropriate)

5. 添付資料 Attached document(s)

_____ 枚 pages (和文 4,000 字程度、和文に限る。ただし、論文題目のみは、和文・英文を併記すること)

(Approximately 4,000 characters in Japanese. Only Japanese is permitted. The Doctoral Thesis title, however, must be written in both Japanese and English.)

博士論文審査委員会報告書

提出者： Nguyen Thuy Anh

題目： The Internationalization of Higher Education from the Perspectives of Institutional Stakeholders: The Case of Vietnam National University, Hanoi

論文名和訳： 大学の各構成員から見た高等教育の国際化：ベトナム国立大学の事例

1. 概要

本研究は、途上国における指導的な大学における国際化のあり方を、ベトナム国立大学ハノイ校を事例として、学生・教員・事務組織等の多様な関係者の視点から論じた論文である。873名の学生、132名の教員、90名の事務職員への質問紙調査と71名の大学関係者に対するインタビュー調査を基とし、ベトナム国立大学ハノイ校の国際化の原動力とリスク・障害を、組織の観点と関係者個人の観点の双方から論じた。

2. 本論文の構成

第1章 概要と導入

- 第1節 研究の背景
- 第2節 問題認識
- 第3節 研究の目的
- 第4節 研究課題
- 第5節 研究方法
- 第6節 研究の重要性
- 第7節 研究の限界
- 第8節 論文の構成

第2章 文献研究と概念枠組み

- 第1節 高等教育の変容
 - 第1項 グローバル化と高等教育国際化
 - 第2項 グローバル化と高等教育
 - 第3項 リージョナル化と高等教育
- 第2節 途上国における高等教育と指導的大学
 - 第1項 途上国における高等教育
 - 第2項 途上国における指導的大学
- 第3節 高等教育の国際化 - 概念枠組み
 - 第1項 高等教育国際化の意味とアプローチ
 - 第2項 高等教育国際化の戦略
 - 第3項 高等教育国際化の意義

第3章 ベトナムの高等教育システムと高等教育の国際化

- 第1節 ベトナムにおける高等教育における現状
 - 第1項 ベトナム高等教育国際化の政策枠組み

第2項 ベトナムにおける高等教育国際化の過程

第2節 ベトナムにおける高等教育の国際化

第4章 ベトナム国立大学ハノイ校の国際化戦略

第1節 ベトナム国立大学ハノイ校の概要

第1項 ベトナム国立大学の設立、立場、使命

第2項 ベトナム国立大学の構成と組織

第2節 ベトナム国立大学ハノイ校の国際化

第1項 国際関係・協力

第2項 教職員・学生の留学

第3項 国際的共同学位プログラム

第4項 地域的・国際的標準を確保する戦略

第5章 研究方法

第1節 混合研究手法を使用する理由

第2節 研究対象

第3節 研究デザイン

第1項 研究対象 第2項 研究の手段

第4章 データ収集

第1項 質的データ 第2項 質問紙調査

第5章 データ分析

第1項 質的データ 第1項 量的データ

第6章 分析結果と議論

第1節 国際化戦略 第2節 国際化の理由 第3節 高等教育国際化のリスク

第4節 国際化への障壁 第5節 関係者の役割

第6節 地理的戦略的優先順位 第7節 横断的分析

第7章 要約、結果、政策への応用

第1節 主要な発見 第2節 結論 第3節 政策への応用

第4節 将来の研究に向けて

3. 内容

急速に進む社会経済のグローバル化は、高等教育の在り方にも国際化という急速な変容を迫っており、高等教育国際化の研究は、高等教育研究における重要な研究領域となっている。しかし、従来の高等教育国際化に関する研究は、先進国における高等教育機関もしくは高等教育政策を対象としたものがほとんどであり、その多くが実証的・分析的というよりも、質的・記述的なものであった。このような問題認識のもと、本研究は既存研究の隙間を埋めるために構想された。ベトナム国立大学ハノイ校を事例に、途上国における指

導的大学に焦点を当てて、学生や教員、事務職員という高等教育機関関係者に個別の質問紙調査やインタビュー調査を行うことにより、機関全体の観点だけではなく、その構成員のそれぞれの観点での国際化認識を明確にしようとした。

本論の目的は 事例大学における高等教育国際化戦略の現状を把握したうえで、大学の各関係者（学生、教員、事務職員）のそれぞれが高等教育国際化の意義・リスク・障壁及び優先課題をどのように認識しているかを解明し、それぞれの関係者の課題認識の差異を分析することによって、途上国における指導的大学が抱える国際化の特性・課題を抽出し、今後の方向性を考える礎とすることであった。

本論では、以上のような目的と問題意識を分析するための高等教育国際化の概念枠組みを構築するために、文献レビューで、高等教育国際化に大きなインパクトを与えている社会経済のグローバル化と、ヨーロッパや東南アジア等で進展しているリージョナル化に焦点を当て、その高等教育への影響を論じている。第二に、途上国における高等教育の全体的な状況と課題をユネスコや世界銀行等の国際機関の文書を中心に把握し、その上で、特に途上国の指導的大学に焦点を当てて、アジアの他の指導的大学に関する先行研究からその一般的な特質や国際化の在り方に関する既存の研究成果の整理を試みている。そして、第三に、近年急増しつつある高等教育国際化論の概念枠組みの包括的な把握に努め、これを基礎として、高等教育国際化をその戦略・活動、意義（政治的・経済的・教育的・社会文化的）、リスク（政治的・経済的・教育的・社会文化的）、障壁（組織的・個人的）、地域的優先度によって理解しようとする、本論独自の概念枠組みを構築している。

以上のような概念枠組みを用いながら、文献レビューに続いて、ベトナムの高等教育及びベトナム国立大学ハノイ校の概説をし、この大学を事例とした高等教育国際化研究の意義と限界を提示している。

研究手法としては、質的研究と量的研究のどちらをも採用することにし、873名の学生、132名の教員、90名の事務職員、計1095名への質問紙調査（Webベースのものを含む）と、29名の学生、18名の教員、24名の事務職員の計71名の大学関係者に対するインタビュー調査（フォーカスグループディスカッション形式を含む）を実施した。数量データはSTATAにより主にANOVA分析を行い、インタビュー調査は全て文字化したうえで、インタビュー対象ごとに、数量分析との整合を意識しながら、事例として分析した。

以上の分析の結果、以下のような研究結果が導かれた。

全ての大学関係者にとって、最も重要な高等教育国際化の意義は教育的・学術的意義であった。これは、他の政治的・経済的意義よりも強く認識されていた。

大学の国際化に最も積極的なのは、事務職員であった。

国際化戦略・活動のうち、最も重要と認識されているものは、教育プログラムの国際的標準化、外国大学との共同学位プログラムの開発、大学教員の海外経験の促進であった。

全ての大学関係者が、それぞれの個人的なキャリア開発の中で、大学国際化を位置付

けていた。特に学生はその傾向が強かった。

国際化のリスクとしては、カリキュラムの単一化・西洋化や「学位工場」化による教育プログラムの質の低下、世代間格差の拡大等が挙げられた。

国際化への障壁としては経済的なリソースの不足が最も深刻に認識されていた。

大学の知名度を高めることが国際化の方向性として強く認識されているが、留学生受け入れ等は未だ優先度が低いとされた。

教員や事務職員にとっては、国際化の相手先として依然欧米が強く選好されるが、学生ではアジアもヨーロッパと並んで選好されている。

4．評価

本研究において最も評価されるべきは、1000以上の質問紙回収と70人以上のインタビュー調査によって得られたデータの豊さである。このようなデータ分析を基とした高等教育国際化研究は現状では珍しく、実証研究としての価値は高い。特に、途上国のコンテキストにおいてこのような大規模な実証調査を行った高等教育国際化研究はほぼ類例がなく、研究領域の深化に大きな意義があったと言える。

第二に、途上国の指導的大学という特性を明確にして、ベトナム国立大学の事例を取り上げることにより、事例研究の限界を超えて、一般的な議論をすることに成功している。十分に、途上国の高等教育研究、指導的大学に関する文献調査がなされていることも、こうした事例研究の限界を超え、一般的な議論の展開を説得的なものにしている。

第三に、質的分析と量的分析を混合して活用することにより、分析の精度と信頼性を増すとともに、途上国高等教育の国際化という状況に関するより具体的な像を提示できている。

第四に、高等教育国際化に関する既存研究のレビューを包括的に行うことにより、独自の分析枠組みの提示に成功している。

しかし、審査委員会においては、以下のような課題も指摘された。

- (1) 総合的な分析をしようとするがあまり、研究結果が散漫なものになっており、焦点を絞った結論が得られていない。
- (2) 理論的な議論をしようとする努力した形跡が見られるが、深化が足りない。

5．結論

上記のような課題は指摘されたが、全体として、途上国における指導的大学の国際化に関する実証的な研究枠組みを提唱し、努力してデータ収集をし、実証分析を行った点は高く評価できるものである。よって、論文審査委員会は、この論文を総合的に判断し、早稲田大学博士(学術)に相応しい論文であると認め、学位授与を提案するものである。